平成23年度　第3回京都市上下水道事業経営評価審議委員会議事録

日　時　　平成２４年１月２５日（水）　午前１０時３０分～午前１１時４０分

場　所　　京都ＪＡ会館（京都市南区）

出席者（五十音順，敬称略）

１　委員

越後　信哉　（京都大学准教授（大学院工学研究科））

西村　文武　（京都大学准教授（大学院工学研究科））

野上　幹夫　（社団法人京都工業会理事・事務局長）

林　しげみ　（上下水道サポーター）

前岡　照紀　（税理士）

水谷　文俊　（神戸大学教授（大学院経営学研究科））

２　京都市

次長，技術長，総務部長，総務部経営改革担当部長，

総務部お客さまサービス推進室長，技術監理室長，水道部長，下水道部長

○事務局（総務部総務課）

次第

１　開会

（１）委員長あいさつ

（２）会議の公開等について

２　上下水道事業経営評価制度等に関する意見（案）に関する審議

３　閉会

内容

１　開会

（１）　委員長あいさつ

水谷委員長：　今年度のこれまで２回の審議における各委員からのご意見を踏まえて事務局に指示し，「経営評価制度等に関する意見（案）」を作成した。本日はこの案について審議し，当委員会の最終案としてとりまとめていきたい。

（２）　会議の公開等について

事務局　　：　資料の説明（資料１，資料２，資料３）

水谷委員長：　本日の会議は公開とし，議事録については，後日公表することとする。

第２回委員会の議事録については，資料２記載のとおり承認することとする。

２　上下水道事業経営評価制度等に関する意見（案）に関する審議

（上下水道事業経営評価全般について）

水谷委員長：　特にご意見がないようなので，次の項目に移る。

（取組項目評価の基となる目標水準の客観性及び明瞭性について）

林委員　　：　委員会で申し上げた意見は，案に反映されている。

越後委員　：　数値になじまないものを具体的に表現することはなかなか大変だと思うが，文章の内容は案のとおりで特に問題ない。

（個々の事業（取組項目）が奨励的に目指す目標に対する進捗状況や達成度等の記載について）

越後委員　：　１段落目の下から３行目の市民に「知ってもらいたい項目」という表現は，委員会での私の意見を反映していただいたのだと思うが，必ずしも知ってもらいたくなくても伝えるべきこともあるのではないかと思う。表現は，例えば「特に伝えるべき項目」などに変えた方がよいと思う。

水谷委員長：　各委員も同感の様子なので，１段落目の下から３行目の市民に「知ってもらいたい項目」は「特に伝えるべき項目」と変更することとしたい。

（企業改革プログラムについて）

前岡委員　：　案の文章はこれでよいが，その他の項目も含めて経営評価についてどうやって市民に知ってもらうかという議論が委員会であったと思う。これについてはどう考えているか。

京都市　　：　「１　上下水道事業経営評価全般について」という項目の３段落目で，情報発信の重要性についていただいたご意見を反映していると考えている。具体的に冊子の中身をどうするか，また冊子をどのように情報発信していくかについては，ご意見を踏まえてよく検討し，来年度に改善していきたいと考えている。

水谷委員長：　重要な点である。来年度の委員会でも審議していきたいと思う。

野上委員　：　案の文章で特に問題はない。

（本日の意見の整理）

水谷委員長：　本日審議した内容について，整理したい。

項目立ては，本日審議した４つの項目で構成するということである。

「１　上下水道事業経営評価全般について」は，特にご意見はなく，案のと

おりでよいということであった。

「２　取組項目評価の基となる目標水準の客観性及び明瞭性について」も，特にご意見はなく，案のとおりでよいということであった。

「３　個々の事業（取組項目）が将来的に目指す目標に対する進捗状況や達成度等の記載について」は，１段落目の下から３行目の市民に「知ってもらいたい項目」という表現について，知ってもらいたくない項目でも伝える必要がある項目もあるので，「特に伝えるべき項目」に変更した方がよい，という意見があり，各委員の同意があったので，修正のうえ取りまとめたい。

「４　企業改革プログラムについて」は，文章内容について特にご意見はなかったが，全体としての広報についてご意見があった。

以上を基に，案の修正を行い，委員のみなさんにお送りしてご確認をいただいたうえで，当委員会の意見として公表したい。

（２３年度委員会を踏まえての各委員所感等）

水谷委員長：　次第２の審議については終了したが，今年度３回の審議を終えての感想や，来年度以降の議論の題材等，自由に御意見をお願いしたい。

越後委員　：　経営評価自体は大変立派な冊子であり，ここ数年見てきた中で，完成形に近づいたという印象であるが，評価作業が大変だと思う。できるものについては簡略化を考えていくのがよいと思う。業務指標は統計的には１０個程度で全て満たせるという研究結果もある。合理的，効率的な経営評価ができればよいという思いがある。

野上委員　：　経営評価の冊子は大変立派なものである。市民に伝わらなければ非常にもったいないことであり，もう少し平易に伝えてもらえたらよいと思う。

前岡委員　：　経営評価は大変立派なもので，相当時間をかけているというのが第一印象であった。とはいえ，これだけの費用と時間をかけて作成したものをどのように市民に広報していくのかということが課題である。例えば，備蓄飲料水「疏水物語」について私自身知らなかった。他の市民でもまだまだ知らない人がいると思う。上下水道局がいろんなことを行っていることについての広報が不十分なのかという印象を受けた。

林委員　　：　京都市の政策は「共汗と融合」ということになっているので，市民に訴えたいことは積極的に訴えるべきだと思う。

例えば，環境報告書はとても良いものである。その中で，下水汚泥の有効利用の取組である「京（みやこ）石」が平成１４年度国土交通大臣賞「いきいき下水道賞」を受賞していることなどは誇るべきものなので，アピールすべき点だと思う。

西村副委員長：　民間企業への派遣研修を実施しているが，例えば広報をどう効率的に行うか

ということについて，民間ノウハウを参考にして取り入れてみればよいと思う。地下鉄，KBS ラジオなどでの広報は，当委員会に携わって上下水道事業に意識を持った者としてはこれらの取組を認識しているが，あまり普段意識のない市民に対しては，もう少し別の形でインパクトを与えるような方法を検討すべきであると思う。

水谷委員長：　ここではいろいろな意見が出たが，これらの意見は取りまとめるというよりも，そのまま次回以降の経営評価に活かしてもらいたい。「立派な経営評価だが，市民に伝える方法にもっと工夫が必要である」という意見が多かったように思う。きっちりとした経営評価でも，それが市民に伝わらなければ，事業を正しく認識されない。それを次回以降の課題にしてほしい。

　また，私の意見としては，下水道についてアピールが弱いように感じた。

西村副委員長：　市民感覚からするとどうしても上水道への意識が強いと思う。しかし上水道も下水道も社会インフラであり共に非常に重要な役割を果たしている。今後更に市民の下水道への意識を高めるための取組が必要である。これは京都市だけではなく下水道業界全体の課題かもしれないが，京都市としても進んで取り組んでもらうことを期待する。

水谷委員長：　もう一点，対事業者への視点が弱いと感じた。どうしても個人の使用者に意識が行きがちだが，地下水利用の問題などもあり，事業者に向けた情報発信も課題として認識していく必要がある。

4　閉会

京都市　　：　経営評価の充実に御協力いただき感謝している。例えば概要版の作成など，これまでの委員会の意見が経営評価の改善に実際に役立ってきている。

　今年度いただいたご意見については来年度の経営評価に活かしたい。

　特に市民や事業者へのアピールについては，上下水道への関心が薄い現状の中では，その方法に頭を悩ませているところである。

　最近では「ワンフレーズ」による広報展開により地下鉄広告を活用してきており，少しは水道への関心が高まってきているのではないかと思っている。先日の１００周年の記念イベントでも「京都の水道水はおいしい」とのお声をいただくことが多かった。これは水質向上の成果であると共に，こうした取組がようやく浸透してきた結果とも感じている。

　今後も更に広報の在り方について工夫していき，その中で先ほどの御意見にあった経営評価についても，更に市民に知っていただけるよう努めていきたい。

　１年間の活動についてお礼申し上げる。